

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800016		
法人名	(株)ユニマツリティアメント・コミュニティ		
事業所名	岐阜県土岐ケアセンターそよ風 グループホーム(1階)		
所在地	岐阜県土岐市肥田浅野元町2丁目24番地		
自己評価作成日	令和4年9月12日	評価結果市町村受理日	令和4年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoCd=2191800016-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和4年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護記録システムの導入により記録時間の短縮が図られ、その分利用者への目配り・関わりを増やすようにしている。静と動を意識したレクリエーションの工夫も行っており午前中は活動的に、下肢筋力低下防止を目的とした内容を、午後は手先や脳を使うような内容で提供している。中庭を活用した花や野菜作りも職員だけでなく利用者也巻き込んだ取り組みが出来るようにし、収穫の喜びも分かち合えるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍前は、市に申し出て子供110番に登録し、放課後に近所の子供が事業所に遊びに来て利用者と交流していた。事業所から地域に働きかけて避難訓練への協力が得られている。本社が家族に対して満足度調査を行い、事業所に結果がフィードバックされ職員に周知して対応等を話し合い運営に取り入れている。職員はオムツを外すことを目標に取り組み改善した方もいる。チェック表からパターンを把握し声を掛けて誘導している。夜間も声を掛けて利用者の状態に合わせて支援することで布パンツで過ごされている方もいる。頻回な方でも利用者の意向を大切に根気強くトイレに誘導している。職員間で情報を共有し利用者の思いを叶えることができるように取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	何年も同じ理念を通しており、職員への浸透もある。毎月のミーティングでは意味を深掘し更に理解を深めるよう努めている。	毎月のミーティングで日頃のケアについて意見を出し合い、理念が実践出来ているか確認している。職員は利用者の好きなこと、出来ることを支援し笑顔で楽しく過ごせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症になっても安心して暮らせる街作り活動への参加が以前はあったが、現在難しい状況となっており新しい生活様式の中でいかに地域とのつながりを持つかは課題であると認識している。	利用者と一緒に散歩して近隣の方と挨拶を交わしている。畑で作業している方より野菜をいただくこともある。地域の文化祭に利用者と一緒に出掛けている。小学校からパンジーのプランターをいただきお礼の手紙を出している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	啓発運動の中で認知症になっても出来ることをアピールしていた、地域包括が行っている認知症カフェにも利用者と共に参加していたが、今後はどのような活動が出来るか思案中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約3年前までは通常に行っていたが、コロナ禍により中止。ご家族への日頃の連絡の中でご意見を伺い、個々の思いに沿ったサービス提供が出来るようにしている。	定期的に書面で開催し取り組み状況を報告している。管理者は、メンバーに電話したり、来所した家族に意見を聞いたりしている。面会や感染症対策、下肢筋力低下予防など意見が出されて職員間で話し合い取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受入れや行政開催の研修等も以前は行っていた。現在はメールによる情報交換となっている。	書類の提出や分からないことを聞きに行った時に市の担当者と情報を交換している。市主催の会議に出席し情報を交換している。コロナ禍前は、介護相談員を受け入れて利用者の面談後に意見交換していた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度は必ず研修を行っている。センターとしては毎月身体拘束適正化委員会を行っており、職員一人一人の理解を深めている。	併設施設の管理者で毎月委員会を行っている。ミーティングで日頃の言葉使いについて振り返っている。管理者は職員の言葉使いが気になった時は直接注意している。3ヶ月に1回研修を行い身体拘束をしないケアが実践できるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	適正化委員会の際に、スピーチロック等声かけについても毎回話し合いを行っている。それでも現場での慣れ合いな言葉かけにはその場でお互い声を掛け合うようにしている。		

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる人はいないが、家族からの相談にはのっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は特に時間を設け説明を行っている。改正に関しては面会時やお便りでも説明しご理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話しを伺う。利用者の暮らしぶりについて月に一度お手紙を郵送し家族からの意見記入が出来返送可能としている。家族からの要望・質問等には直ぐに対応するように努めている。次回訪問時には報告が出来るようにしている。	家族が来所した時に、タブレットで利用者の写真を見せながら生活状況を伝えて要望を聞いている。本社で利用者満足度調査を行い、事業所にフィードバックされ職員に周知して話し合い取り入れている。利用者より野菜を作りたいと言われてトマトやキュウリを植えて収穫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の関わりの中で話しを聞くことが多く、全体で話し合い環境改善に努めている。本社からも年に数回働き方や職場環境に関するアンケートがあり無記名で報告出来るようになっている。	管理者は毎月のミーティングに出席して職員の意見や要望を聞いている。管理者として日頃から職員の意見に耳を傾け、その都度、解決することを心掛けている。職員から駐車場を整備して欲しいと意見があり駐車場を変更している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や契約更改時の面談もあるが、日頃のコミュニケーションの中で本音を聞き出すようにしている。その中で個々のモチベーションアップに繋がるように話しをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のセンター会議の中で研修があり、グループホーム独自でも研修を行っている。各自、意欲を持って挑戦する職員もありシフト調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は自社のグループホーム協議会のみとなっているが、意見交換や勉強会を行っている。		

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の段階では家族の要望が大きく反映されるが、施設生活に慣れていく中で信頼関係を築き少しずつ思いが表出してくる。本人にとっての安心とは何かを模索しながら支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階ではほぼ家族の要望となる。その思い、不安を傾聴し一緒に解決に近付けるよう気持ちを共有し利用者への支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の思いや本人の状態を観察し、併設するサービスもご案内しながら現状の選択肢について説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人権尊重、自尊心への配慮を怠らず個々の残存能力を活かした支援をする様に指導している。カンファレンスの際にも日々状態の変わることにも目を向け本人の希望なども考慮し、支援について情報共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態を報告するだけでなく、本人の思いを伝え、家族の要望も常に伺っている。協力して頂きたい点についてもお伝えし共に支援するという思いで努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在困難な状況となり今後の課題でもある。面会を緩和したが、一人15分の制限がありご家族以外は来所を遠慮されてる様子がかがえる。	コロナ禍前は近所の方や友人、同級生など多くの方が面会に訪れていた。電話をかけた方には事業所の電話を貸して掛けている。利用者と家族が交換日記が出来るように職員が支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要時には介入するが、お互いを労わる姿が常にあり、職員が介入し過ぎることのないよう見守っている。		

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の相談にのることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で、本人の意向・思いを聞きカンファレンスで情報共有しケアプランに反映させている。自己表現の困難な方も職員本位にならない様注意し、常の観察から読み取るようにしている。	日頃の会話の中で利用者の思いを聞いている。風呂や夜間など一対一となったときに聞くこともある。困難な場合は、職員から問い掛けて表情から把握している。利用者の思いが分かりにくい場合は家族に確認しながら思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聞き出すことが可能であれば伺っている、困難な方には家族に確認することもあるが、把握されていないことも多い。日頃のコミュニケーションの中でふと出る話もあり職員で情報共有するようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々関わる中で、個々の生活ペースや身体状況を観察し必要な支援について職員同士で検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思い・状態、家族からの要望、職員の意見、医療関係者との話し合いにて達成可能な短期目標を設定し、毎月モニタリングを行い変更・追加など現状に即すように努めている。	計画作成担当者が定期的にモニタリングを行っている。家族や医師の意見を取り入れて、職員間で話し合っってアイデアを反映した計画を作成している。年1回職員研修を行い介護計画の重要性を理解できるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録システムの導入となり、どなたも同じような内容の記録とならないように指導している。気づきや状態については常に情報共有し支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調不良や見極めなど自施設他部所の看護師に相談すること、必要時は職員による通院介助も行っている。		

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はボランティアや近所の方との交流もあったが、現在は施設の中で如何に楽しく過ごせるかを考えサービス提供に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医との関係を尊重して受診頂いているが、その際の受診は家族対応である為、殆どの家族が協力医へと変更を希望される。	かかりつけ医の受診は家族が同行している。職員は利用者の状態を口頭で伝えて受診の結果を確認している。急病の場合は、職員が受診に同行したり、医療機関で家族に引き渡したりしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問があり、その都度情報提供し健康管理をして頂いている。異変時には協力医に連絡して下さり適切な診察を受けることが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーの提供、情報交換や相談を行っている。入院中にも足を運び状態確認や状態を伺っている。退院後も適切なサービスが出来るよう指導も頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化や看取りについての説明を申し上げるが、実際近づいた際には再度施設で、出来る事と出来ない事をお伝えしている。状態の変化から気付いた点を早い段階から家族に伝え、思いの確認を重ねている。それに基づいて職員は支援を行い、医師には家族の思いを常に伝えている。	契約時に事業所の方針を家族に説明している。状態の変化に伴い早い段階から家族の意向を確認している。終末期は医師から家族に説明し訪問看護の職員と連携しながら取り組んでいる。終末期に家族の要望があれば面会や宿泊することが出来る。管理者は、状態の変化に伴い詳細の対応について職員に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の電話連絡、利用者の状態の的確な説明等、日頃から指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の年2回実施。消防署立ち会いは内の1回。センター全体でも行い、協力体制の確認を行っている。	管理者はハザードマップを確認し職員に周知している。2階からの避難訓練も含めて年2回訓練を行っている。地域の協力関係が構築できるように取り組んで協力が得られているが、夜間を想定した訓練の内容が不十分であった。	関係機関に相談しながら正しく夜間を想定した訓練が実施できるように取り組んで欲しい。

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては頻回な研修が必要となっている。個々の人格の尊重に努め、尊厳を大切にしたいサービスを行うよう努めたい。	管理者は、排泄介助のとき戸を閉めて介助する、大きな声で話さないなど職員に伝えている。職員は、利用者の思いを大切に傷付けたくない言葉掛けを心掛けているが、居室のポータブルトイレが廊下から見えるように置かれていた。	職員間で話し合っ、羞恥心に配慮できるように取り組んで欲しい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を大切にすることを指導している。困難な方には表情等を確認し笑顔が引き出せるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受け身の方が多いため職員からの提示通りになってしまっている。色々な情報や選択肢を提供しても控えめな方が多い。そのような中でも何か希望が引き出せるよう工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際や起床後の着替えには自身で洋服を選ぶことが出来るようお手伝いをしている。持参された化粧品が不足時にはご家族に連絡をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常に一緒に食事を摂ることで、嚥下状態など確認し個々の状態に合った食事形態で提供するようにしている。衛生管理法の一部改正により利用者がどこまで携わることが出来るのか現在確認中。	2ユニット同じ献立であるが、利用者の食べたい物を聞いてユニット毎で変更している。近所の方から野菜をいただき利用者に食べたい献立を聞いて提供している。ウナギが食べたいと言われ、かば焼きを取り寄せて食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、水分量を記録し把握。体重管理、健康状態を確認し個々に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア。歯科衛生士による口腔内の定期的な清掃と管理が受けられる。協力歯科医師による往診も受けることが出来る。		

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄習慣を把握し、トイレへの誘導を第一としている。オムツになっても本人の意思があればポータブルトイレへの誘導を介助している。	職員はオムツを外すことを目標に取り組み改善した方もいる。チェック表から排泄パターンを把握し声を掛けている。夜間も状態に合わせて支援し布パンツで過ごしている方もいる。頻回な方でも利用者の意向を大切に根気強く誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取・運動・乳製品の活用などで腸の活性化を図る。必要に応じ主治医と相談し服薬対応もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に毎日入浴できる体制をとっている。職員と一对一の時間であり普段話せない事でもゆっくりと話して下さることも多く大切な時間となっている。	希望があれば毎日でも入浴することが出来る。順番や湯温、同性介助など利用者の意向を大切にしている。仲の良い利用者同士と一緒に入浴したいと希望があり支援している。入浴剤や柚湯など楽しめるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は自由にとって頂いている。夜間の安眠確保の為日中は出来る限り活動的に過ごして頂くように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋には必ず目を通して押印している。新しく処方された薬がある時にはしばらく様子を観察し情報共有したり必要があれば主治医・薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る事には見守りのみとし、役割として生き甲斐に繋がるように支援している。中庭に出て、花の手入れや草むしりなどで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や行きつけの美容院など職員だけでなく家族の協力を得ながら行っておりました。最近では車から降りずにドライブを楽しむことを目的に外出しております。	家族から外出したいと要望があり、感染対策を説明して自宅での食事や墓参り、紅葉を見に出掛けている。コロナ禍前は、ボランティアの協力で高齢者が参加するマラソン大会に出場した方もいる。急に外出を希望される場合は職員と一緒に散歩に出掛けている。	

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	誕生日には買い物に出掛けご自分の欲しい物を購入頂く支援を行ってあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が不自由となり、家族への思いが募り今まで以上にお手紙を書かれる事が増えました。返事を頂くことで次の手紙へつながっています。電話の希望があれば職員がお手伝いしながらゆっくりと話して頂けるよう配慮しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和みや温かみを感じて頂けるよう光、音等配慮している。壁面飾りもレクリエーションで毎月趣向を凝らし季節を感じて頂けるようにしている。	リビングに利用者が作成した季節の作品を飾っている。玄関に季節の花や利用者の作品を飾っている。職員は、利用者同士で会話が楽しめるようにソファの配置を考えている。眩しすぎないようにガラスに細工して快適に過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ、畳の上などお好きな場所ですつろいで頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、見慣れた物を持ち込んで頂くように入所時に依頼している。家族(ひ孫)からのお手紙や写真などを飾り、家族と離れている寂しさを少しでも紛らわせることが出来るよう家族にお願いしている。	椅子やテレビ、布団など使い慣れた物を持ち込んでいる。仏壇を持って来て毎日水を供えて手を合わせている方もいる。ボランティアの協力を得てマラソン大会に出場した時の思い出のポスターや似顔絵を飾って懐かしんでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札、トイレ・浴室には認識し易いように張り紙がある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800016		
法人名	(株)ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	土岐ケアセンターそよ風 グループホーム(2階)		
所在地	岐阜県土岐市肥田浅野元町2丁目24番地		
自己評価作成日	令和4年9月12日	評価結果市町村受理日	令和4年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index_php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2191800016-00&Seriv.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和4年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍であり、外出や面会等に制限を設けざるを得ない状況も3年目を迎え、近所への散歩・LINEビデオによる面会等の対応も和らぎ、体調確認の下の面会・ドライブ、中庭の野菜作り…少しでも入居されている皆さんの精神面を支えることが出来ればと行ってまいりました。施設内でいかに楽しく過ごして頂くかを常に考え、楽しみの一つである食に焦点を当てて、アイデアを出し合いながら『美食祭り』『バイキング形式で昼食』など提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サービスのあり方が理念に沿って実践されているか定期的なミーティングで確認を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりとして事業所や利用者の存在感として利用者との散歩、買い物、イベントへの招待を実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当地域内での事業所同士によるフォーラム、交流会にて事業所のアピールやスキルアップにも役立っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議によって現在の取組状況の報告により、ご家族様、外部の方々のご意見や情報交換をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政からの情報、指導を受けている。行政の研修等にも参加をしている。情報交換の場とも受け取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑圧感のない暮らしの提供は常に念頭に置いている。フロー全職員は禁止対象となる行為を理解しているが、防犯の為の施錠は実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の生活歴、周りの人々との交流を理解すること、報連相を用いる。ミーティングやセンター会議で研修を行って各職員が自覚を持つ。		

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修や実践済報告書等で学び、職員でのミーティングでも個々に把握できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	社内規定により、ご家族様への説明、不安、疑問を解消して頂いている。利用中にも家庭事情等による相談も随時受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の要望は聞き受け、カンファレンスや推進会議にてオープンな意見交流を目指している。家族様にも同様に働きかけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見が取り入れられるよう、社内提案の企画があるように各拠点でもセンター会議での討論もある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別相談や人事考課等、日頃の職場環境の相談などコミュニケーションを取っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・外の研修の案内を掲示回覧している。目的の研修へのアドバイスやシフト調整も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業施設との交流会や研修等で良い交流となる関係を作りサービス向上に努める。		

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを元にご利用者様に先入観を持たず、傾聴させて頂き必要とされていることを探し、信用を持って頂く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のご意見、ご相談は何事も初めてのパターンと受け止め、細かく傾聴する。疑問も先延ばしにせず恐縮にてと、伺う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	デイサービス、ショートステイを併設している事で、ご案内、各サービスの選択肢についてご説明させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を少しでも早く築く為、職員の協力、共有を徹底する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には「してもらっている」という気持ちを感じられる方もある。利用者様・職員・家族という三位一体で取り組んでいきたいと思っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の記憶に残っていることを取り上げ、レクリエーションや外出で支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲間意識の継続が困難な方もあるが共有できる何かを見つけ、職員共有の上、場면을盛り上げるようにしている。		

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約終了後も協力機関を通じ、ご本人様・ご家族様の近況情報を伺うお手紙や相談等にも協力をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握に困難な場合は、近親者やご本人の話しを何度となく傾聴してご本人の満足度を探る。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族の話し、馴染みの関係等の情報収集に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族、十人十色の情報共有を素に良好な常態の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のカンファレンスにて暮らし方、身体の変化等を確認し合い現状に合った介助を作り上げる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日報、気づき、ヒヤリハットなどを朝礼、申し送りでの共有、会議等で介護計画に加える事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様との信頼関係を築き、ニーズに正しく対応できる様、柔軟な受け止めと職員個々の暖かみを出している。		

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方々との交流やボランティア、介護相談員(行政)認知症カフェでの交流など、安心できる機関を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意見・希望に合わせている。受診はご家族にお願いしている。協力医に月2回の往診、訪問看護師の来訪で健康管理・指導をいただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH全体で週一回の訪問がある。異変時には協力医へ連絡を取って頂け、早い処置が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーと近況情報の提供、入院中も本人の状態確認に伺う。ご家族様や担当看護師から状態情報を得て退院後の支援の方法につなぐ。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの指針を詳細に作成。ご本人やご家族などのやり取りを記録する。ご家族様には理解と共に終末期を施設と一緒に取り組んで頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の電話連絡、利用者様の的確な状態報告、説明が出来るように研修や指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練の実施、夜間想定や他部所との合同訓練。地域的には防災訓練は実施されていないが交流の中で災害時の共助について話し合っている。		

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇を何より大切にして、言葉遣いには職員同士注意し合っている。研修も数を重ねているが、尊厳に欠ける慣れあいな言葉掛けがある、その都度注意して個別で指導することもある。排泄・入浴は特にプライバシーに注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を基にしている。困難な場合には二者選択等出来る範囲で確認している。出来ない方には表情確認で笑顔が引き出せるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活、活動ペースを大切にして見守り、必要に応じて介入している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の気分や好みを重視して衣服選択、化粧品の購入依頼をご家族に連絡することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下拵え、味見、食器拭き、片付けを一緒に行っている。好みを伺い、皆でメニューを決める日もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の度に食事量、水分量を確認し本人様の健康状態、咀嚼・嚥下を観察、食事形態が相応しいか確認する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	摂食時の状態も見ながら、義歯の不具合はないか、口腔ケアの際確認する。必要があれば歯科医とも相談し介入を依頼している（ご家族確認後）		

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見て誘導することで失敗が減少している。夜間帯も声掛けをして本人の無理の無い程度で起きて頂き誘導する。個別にパターンを持つ。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、オリゴ糖などの利用。運動に水分摂取など出来る限り薬に頼らない働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の時間帯は決まっているが、入らないは本人の意思を尊重している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠確保の為、出来る限り日中は活動的に過ごして頂くようにはしているが、休息も自由とし本人の意思に任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋が出る度に職員は必ず目を通し、副作用等についても理解するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方や畑仕事が得意な方など個々に合った活動が出来るように生活歴の把握に努め、遣り甲斐を感じる日々が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力も得ながら外出支援を行っていた。		

土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在個人で金銭を管理してみえる方はいないが、所持することでの安心感を職員は理解し、利用者の気持ちの尊重に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙のやり取りは自由で本人の希望があった時には即座に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室には場所が分かるように記してある。季節が分かるように毎月壁面にはその月に合ったものを皆で制作し展示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の部屋を訪室し、ゆっくりお喋りされる姿がある。一人でゆったりとお部屋で過ごされることも自由とし、自分の居場所確保の支援も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご本人の使い慣れた物を持ち込んで頂くようお願いしている。特にご家族の写真を依頼。寂しさが紛れるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、浴室に名前を貼り、迷うことのないように見守りしている。		